



版Fan

Vol.56

2018年 春夏号

企画展

開館30周年記念

浮世絵モダン 深水の美人! 巴水の風景! そして・・・

浮世絵版画は江戸から明治にかけての先端の風俗や流行、出来事、市井の話題などを常に新しい斬新な様式で表わした出版物であり美術作品でした。また市場経済と結びつき、庶民が鑑賞できる数少ない絵として流通していました。そのような浮世絵は、いってみれば、江戸から明治にかけて、庶民がわずかに目にすることができた現代美術であったわけです。

浮世絵版画の超克を目指して大正初期に登場し、昭和前期まで制作・出版された「新版画」と称する創作性の高い伝統木版（「浮世絵モダン」とネーミング）もまた、同時代の芸術思潮を気かけながら、女性に映された新しい風俗、明治以降にその魅力に気づかされた自然や都市の風景、古典歌舞伎に加えて新歌舞伎や新派、さらに新劇が普及した大正期の演劇界を背景に活躍した歌舞伎役者などを近代的感覚によって表わした現代美術であったと見なすことができます。その作品内容は、同時代の絵画や彫刻、創作版画などと同様に、時代の表現動向と密接に関係していました。

本展覧会は、2005年に当館が企画開催してその成立と展開の見取り図を示した「浮世絵モダン」展の第二弾として、以上のような視点をもとに「浮世絵モダン」が同時代の社会や芸術などと共鳴しつつ、何をどのように表現したかを探求することを目的として開催します。「女性（美人）」「風景」「役者」「花鳥」「自由なる創作」の5つのコーナーで構成し、約300点を出品します（前期・後期で展示替えあり。常時約230点展示）。近年人気が高まる川瀬巴水の風景画のほか、橋口五葉や伊東深水の美人画、吉田博の風景画、山村耕花の役者絵、小原古邨の花鳥画など、多数の画家のさまざまな内容の版画が出品されます。「新版画」をまとめてご覧になれる絶好の機会になりますので、乞う、ご期待!!

（学芸員 滝沢恭司）

2018年4月21日(土)～6月17日(日) 月曜休館

一般=800(600)円、大・高生、65歳以上=400(300)円、

※()内は20名以上の団体料金 中学生以下は無料

※4月21日(展覧会初日)は入場無料



橋口五葉《髪梳ける女》
1920年 町田市立国際版画美術館蔵



川瀬巴水《東京十二題 深川上の橋》
1920年 町田市立国際版画美術館蔵

企画展

浜田知明 100年のまなざし

2018年3月10日(土)～4月8日(日)

月曜休館 一般600(500)円/大学・高校生、65歳以上300(200)円

* ()内は20名以上の団体料金 中学生以下は無料

*3月10日(土)(展覧会初日)は無料

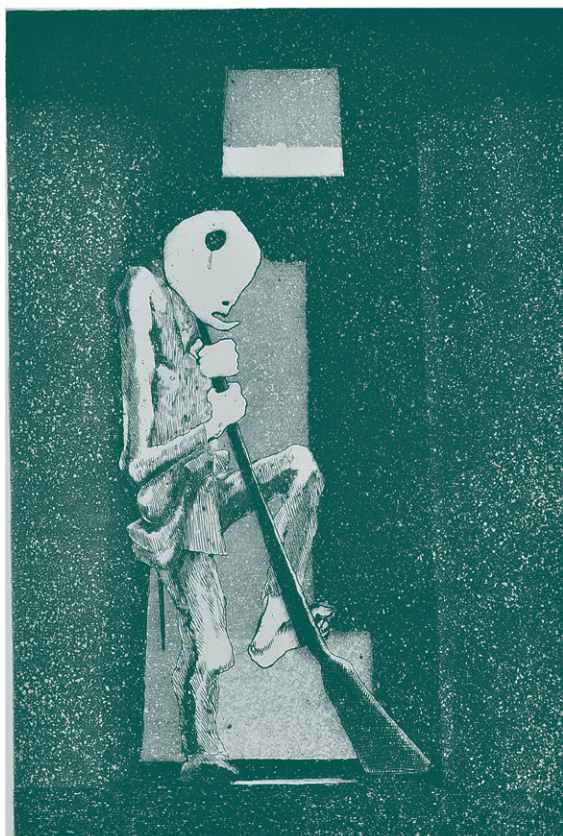
昨年100歳を迎えた浜田知明(はまだ・ちめい)は国際的にも高く評価されている版画家・彫刻家です。1950年代に過酷な戦争経験を描いた『初年兵哀歌』シリーズを発表。自らの加害性にもまなざしを向けながら、否応なく戦争に巻き込まれる人間の哀しみを冷たいマチエールの銅版画作品へと昇華させ、戦後日本の版画に新たな地平を開きました。

本展では揺るがぬ視点で時代を見つめてきた浜田のまなざしを追いながら、初期から近年までの銅版画約90点と彫刻作品を展示。社会や人間そして自分自身をも鋭くユーモラスに諷刺しつづける浜田の世界をご紹介します。あわせて浜田と前後して銅版画による新しい表現を追い求めた関野準一郎、駒井哲郎、瑛九、浜口陽三、池田満寿夫らの作品も展示し、合計約150点をご堪能いただけます。

不穏な社会情勢が続く今日だからこそ、浜田の作品は私たちに大きな問いを投げかけることでしょう。

(学芸員 町村悠香)

浜田知明《初年兵哀歌(歩哨)》1954年 エッチング、アクアチント
町田市立国際版画美術館蔵



常設展示室

企画展

西洋古版画にみる「複製」と「創作」

本展では銅版画を中心とした16、17世紀の西洋古版画の協同制作に注目します。西洋銅版画の黎明期にあたる15世紀は、デューラーのように自ら下絵を描き、銅板を刻み、出版することが主でした。16世紀になると原画・版刻・版元といった分業制作が広まります。元になる絵を版画に「複製」するための体系的な線刻表現ができあがったことと、本の挿絵や政治的・宗教的メッセージを伝える紙片などに用いられる銅版画の需要が増したことが、分業化を促したといえるでしょう。

さらに時代が下るとルーベンスのように画家が自らの「創作」を広めるために、版刻師を雇って油彩画を版画化することも行われるようになります。また刻線でさまざまな質感や量感を表現する版刻師の技術によって生まれた作品には、原画とは異なる美的価値をもった一種の「創作」といえるものが少なくありません。「複製」と「創作」をキーワードとした本展をつうじて、西洋古版画の魅力の一端をご堪能いただければ幸いです。

(学芸員 藤村拓也)

4月11日(水)～6月17日(日) 入場無料
月曜休館(祝日・振替休日の場合はその翌日)



ヘンドリック・ホルツィウス(原画)、ヤン・サーンレダム(版刻)《ホロフェルネスの首をもつユディット》
1575～1607年頃 エングレーヴィング
町田市立国際版画美術館蔵

楽しからずや木版画

友の会「アートスクール木版画講座」
2017/8/2～9/13全6回実施

川崎の斎藤文夫さんが所蔵する浮世絵をこれでもかと幾たびも見させて頂き、その都度その素晴らしさを育んだ町人文化に心から脱帽してました。彼らの足元でも良いのでそれらしき物を作りたいとして、友の会が会員向けに開催する木版画講座を受講したのが6年程前のことでした。その結果、よくもまあ今迄何も知らずにと我が身を呆れるも、ひとつひとつが鮮明で心地よいショックを受け、それ以来「祭」をテーマとした作品に取り組み、去年は「秋田男鹿のねぶた」に4か月程掛けて挑戦しました。未だあすれば、あのミスがなければと思うところが沢山ありますが、それは愛嬌として版画仲間とのわいわいがやがや、先生の一言一言が、その楽しさを倍加してくれたことは言うまでもありません。今年もわいわいがやがやと、浮世絵師の爪のアカ位になりたいものと木版画作りに励みたいですね。何時までも心躍らせて・・・。(友の会会員 金丸 正二)



手わざ、筆わざ、水わざの水彩画講座

友の会「アートスクールやさしい水彩画講座」
9/13,10/20,11/17 全3回実施

私は水彩画用具を押し入れより何年振りに取り出し、懐かしさ一杯で、野澤菜穂子先生の講座に参加させて頂きました。透明水彩では厚塗りでの下の地を隠したり、修整したりということはしにくいので計画的に的確な手順で作業することが大切です。そのうえ時間的な制約もあるので問題点を整理して、できるだけ単純なプロセスでどれだけの効果をあげることが出来るかを丁寧にご指導頂き、自分なりに頑張ってみました。また、染色のロウケツ染めの技とよく似たマスキングによる制作技法を教えて頂きました。水彩的手法で表現するとき、つねにみずみずしいものでありたいと考えています。紙面の湿りと乾きのころあいで、手わざ、筆わざ、水わざとして絵のなかにあらわれるようです。一回性という心もとない偶然性にゆだねられるものとして緊張しましたが、何時も笑顔で野澤先生が励まして下さいました。ありがとうございました。



(友の会会員 剣持 正)

私の一枚 ジョルジョ・モランディ「花 Flowers」1950年 油彩 32.5×25

私の一枚は、ずい分前になりますが、新聞の日曜版にのったジョルジョ・モランディの「花」という題の小さな絵です。花らしい華やかさはなく、静かにたたずんでいるだけなのですが、強い印象で心に残っています。

首の長いアール・ヌーヴォー調の白い花器、そこにいけられた小さなロマンティックな花束、絵に描かれるのは、故郷ボローニャやローマで見つけた壺などの器です。モノクロームに近い抑えた色調、もっともステキなのは、モランディ特有のグレーと白、薄いピンク、オレンジのやわらかな色調。静物との長い対話を経て描かれた絵は、見るほどに深みに向いて、私たちの心に触れてくるのです。

ジョルジョ・モランディはボローニャで生まれ、ボローニャに住み、ボローニャで一生を過ごしたイタリアの巨匠です。ほとんどをアトリエで描いていたそうです。初めてモランディの風景画を見た時、とても簡略化されていて、空白もあり、晩年の絵は自分だけが見た、光と影だったかも知れません。こうして思い出してみると、もう一度モランディの花が見たい、アトリエにさす柔らかい光、優しいまなざしの静かな絵が見たいと思うのです。

GIORGIO MORANDI (1890～1964)

友の会会員 矢口初子



第20回美術館めぐり

2017/11/9実施

見学場所：早稲田大学「会津八一記念博物館」
センチュリーミュージアム

どちらも、学芸員さんの丁寧な説明が嬉しいかぎり。会津八一記念博物館では、横山大観と下村観山のコラボ巨大作品が迎えてくれました。大学構内の学食に大隈庭園など、プラスαの楽しみも。更に、徒歩で移動のセンチュリーミュージアムでは、「古筆(コヒツ)ーカナの美」を堪能。特に藤原俊成の「日野切」には感動です。幹事さん、どうもありがとうございました。(m.m)



第19回ゆうゆう版画美術館まつり報告

「版画でひろがるアートの町田」2017/10/7(土)、10/8(日)

二日間とも天候に恵まれ、お陰様で事故もなく、例年にも増して盛大に行うことができました。テーマは今年も、版画美術館のコンセプト「版画でひろがるアートの町田」。ポスターデザインは、友の会会員の木版画作品が最優秀賞(市長賞)を獲得しました。

まつり恒例の「アートバザール2017」は笑顔にあふれ、市域学生のアートイベント、木版摺り体験、キッズアートスペースなどにはリピーターの姿も多くみられました。更に、企画展「浮世絵に見る子どもたちの文明開化」展に因む当館学芸員のスライドトークは盛況でした。今回もチャリティー・アートバザール収益金(76,162円)を町田市社会福祉協議会に寄付いたしました。

まつり運営委員会より報告



『第20回ゆうゆう版画美術館まつり』は、2018年10/6(土)7(日)開催。今年も広報用ポスターデザインを募集致します。会員の皆様も是非ご応募ください。

編集後記：今年1月で100才になった浜田知明。60才よりブロンズ制作を始めたそう。今年(還暦)は新たな表現に挑戦しよう。(m.m)

予定

第21回友の会定期総会

2018年4/21(土)13:00～ 会場：美術館講堂
・2017年度事業報告および2018年度事業計画案
・「10年継続会員」紹介と記念品贈呈

議事終了後、「学芸員のミニレクチャー：開館30周年・市制60周年記念/オリ・パラ文化プログラム関連企画「浮世絵モダン展の見どころ」」を行います。

多数のご出席をお待ちしております。

各種講座・サークル予定

■美術館めぐり

第22回バス見学会 2018/6/7(木)

「清春芸術村 清春白樺美術館、光の美術館等」
「葦崎大村美術館」

■友の会会員のサークル活動

▽木版画倶楽部

毎月第4水曜・木曜 13～16時 友の会事務所にて

毎月原則第2土曜 13時～17時 美術館アトリエ

・4月よりカレンダー作り開始し、10月末までに完成予定

・10月より年賀状作成 ・その他自由制作

いずれも自由に見学でき、

デモンストレーションも行います。

事務局だより

- 2017 10/5 内覧会支援「浮世絵に見る 子どもたちの文明開化」展
- 10/7,10/8 第19回ゆうゆう版画美術館まつり
- 11/7 第4回ゆうゆう版画美術館まつり運営委員会(まとめ)
- 12/5 合同部会(第19回会員展企画委員会)
- 12/9 アートスクール銅版画講座開講
- 12/15 会員展実行委員会
- 12/19 合同部会(後半期事業)
- 2018 1/16 会員展実行委員会
- 1/23 合同部会(主な議題・20周年記念事業)1/30に変更
- 2/14 美術セミナー(シリーズ人と作品「浜田知明」)
- 2/18 森のコンサート
- 3/2 臨時合同部会(20周年記念事業・2018年度コンセプトとして「enjoy Art 20」ロゴ木版画にて作成決定)
- 3/13～3/18 第19回会員展(3/17 抹茶サービス 3/18 懇親会)
- 4/20 内覧会支援「浮世絵モダン展」
- 4/21 2018年定期総会

『3/15発行の「まちびと」春号に町田市国際版画美術館友の会の紹介記事が掲載されます。』

友の会会員募集中!

《会の目的》・版画美術館の事業活動支援・会員の教養、親睦を深める・美術、文化および地域文化の向上
《主な特典》美術館企画展が会員証呈示で、すべて無料で観覧、友の会主催行事に参加できます♪
《年会費》一般会員3000円(入会年5000円)・ファミリー会員2000円(入会年3000円)・学生会員2000円(入会年も同じ)・賛助会員1口10000円(法人・個人不問・口数任意・各種特典あり)※申し込みは友の会事務局へ